

Voices

国際関係学部の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか?
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声をWebページで紹介しています。

www.ritsumei.ac.jp/ir/special/intro/

続きを読む Web ページでご覧ください

国際関係学とは何か?

国際関係学で何を学べるのか、教員の研究をひもとき、
豊富なエピソードで描き出していくます



国際関係学部

College of International Relations | Ritsumeikan University



PEOPLE of IR

キャンパスで、海外で活躍する
在学生・卒業生のインタビューサイト



模擬授業・オンライン講義シリーズ



世界が、あなたを待っている。

THE WORLD AWAITS YOU

International Relations Major



Global Studies
Major



Message from Dean

学部長メッセージ

最先端を走り続ける。

国際関係学部 学部長

森岡 真史



21世紀の四分の一が過ぎた現在、通信・輸送・移動の手段は高度に発達し、モノや人、そして情報が国境をこえて膨大な規模で往来しています。市場では、企業や自営業者が世界各地から供給された原材料や燃料を活用し、多種多様な商品を生産しています。

しかし、国や地域間の結びつきや相互依存がこのようにかつてないほど深まっているにもかかわらず（あるいはそれゆえに）、現代の世界は多くの課題に直面しています。ウクライナやパレスチナのガザ地区をめぐる破壊的な戦争では、多くの兵士や一般市民が犠牲となり、国際平和が揺らいでいます。世界経済は中国やインドなどの新興経済を中心に成長を続けていますが、国内および国家間の貧富の格差は依然として深刻であり、一部の国々では紛争や統治の混乱が続いている。国際的な移民の増加は、各国民族構成を多様化させると同時に、摩擦や対立を引き起こす要因にもなっています。さらに、急激な経済成長の副産物としての地球規模の気候変動は、人類にエネルギー利用のあり方の根本的な転換を迫っています。

これらはすべて、多くの国々が関わる「グローバルな」問題であるとともに、各国の政府・企業・市民、そして国際機関や国際組織が協力して取り組むべき「国際的な」課題もあります。これらの問題を分析し、その背景や原因を理解し、改善・解決の方向を探るために、政治学・法律学・経済学・社会学・歴史学などの既存の学問領域（ディシプリン）を横断した研究が必要です。国際関係学は、こうした伝統的なディシプリンを基盤としつつ、現代の「世界」を構成するさまざまな要素の相互関係に焦点を当てる比較的新しい学問分野です。世界の国々・地域はそれぞれ独自の言語・宗教・文化を持つため、国際関係学は地域研究の要素も包含しています。

立命館大学国際関係学部は、この国際関係学を体系的に学び、卒業後はグローバルな視点をもって国内外で活躍する人材を育成します。

することを目指しています。本学部のカリキュラムは、(1) 国際関係学の諸分野を学ぶ専門科目、(2) 世界各地域を深く理解するための地域研究、(3) 実践的な英語力と国連公用語を含む多言語教育の三本柱で構成されます。本学部は、三つの柱のそれぞれを高い水準で提供できる、すぐれた教員陣を揃えています。本学部に入学した学生は、この「理論×地域×言語」の相乗作用を通じて、入学から卒業論文の執筆に至る学びの過程で、国際関係学に関する幅広い知識、思考力、分析力、そして提案力を身につけることができます。

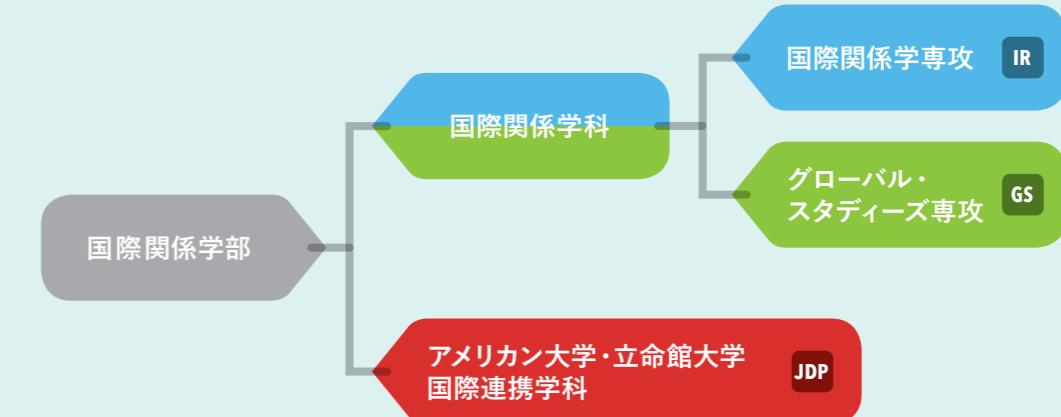
本学部は、ベルリンの壁崩壊の前年である1988年の設立以来、日本における国際関係学の先駆けとして発展してきました。外国の大学との交流も盛んで、多数の留学生の受け入れや派遣は本学部の伝統の一つです。2011年には、日本語で学ぶ従来の国際関係学専攻（IR専攻）に加え、英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻（GS専攻）を新設しました。さらに、2018年にはアメリカン大学・立命館大学双方の国際関係学部で学び、「共同学位」を取得できる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を設立しました。現在、本学部には、日本人学生と世界約30の国・地域から集まった国際学生が在籍し、日本の美しい古都である京都で交流しながら切磋琢磨しています。

学部設立から35年以上を経て、本学部の卒業生はすでに9000人を超えていました。多くの卒業生が、日本と世界各国で、民間企業、公務員、国際機関、研究教育機関、国内外のNPOなど様々な業種で、学部時代の学びを生かして活躍しています。私たちはこれからも、国際関係学の研究と教育を通じて、グローバルな視点を持つ人材の育成に力を注いでまいります。皆さんが立命館大学国際関係学部に関心をもち、私たちとともに国際関係を学び世界へ羽ばたく第一歩を踏み出すことを願っています。

立命館大学国際関係学部は、この国際関係学を体系的に学び、卒業後はグローバルな視点をもって国内外で活躍する人材を育成します。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得ることができます。

主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。

多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システム（P.11）を活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長期に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を

アメリカン大学と共同で開設しました。プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。



IR AT A GLANCE | 数字で見る国際関係学部



APSIA
Association of Professional Schools of International Affairs
APSIAとは、国際関係学が取り扱う諸問題に関する教育の実施と、この分野における高度専門知識を持つ人材の養成を目的に設立された非営利組織です。ハーバード大学、コロンビア大学、エール大学、アメリカン大学などが加盟しており、日本からは、立命館大学国際関係研究科が唯一の正規会員として加盟しています。

Our Faculty and Specializations

国際関係学とは何か？

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合せがあるでしょう。

これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。



AU-RU Joint Degree Program

外交



山本 忠通



FRENCH Thomas William



南野 泰義



岡田 節子



君島 東彦



O'MOCHAIN Robert



五十嵐 優子



KUNSCAK Claudia



山口 智美



島山 純子



KIM Viktoriya



CHEUNG Yukman



RAJKAI Zsombor Tibor



上田 登志子



辻本 家族



RAJKAI Zsombor Tibor



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ



山田 ノブユキ

山田 ノブユキ

多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major

IR

主に日本語で「国際関係学」を学びます。2026年度カリキュラムより、グローバル・スタディーズ専攻と同様「国際秩序平和」、「国際協力開発」、「国際文化社会」の3つの分野で専門科目が構成され、より学際的・自由に科目を選択できるようになります。専門科目に加えて世界各地の「地域研究」科目を体系的に学び、国際社会が直面する多様な課題に挑む力を養います。また、「クロス履修制度」により、英語で開講される科目をグローバル・スタディーズ専攻の学生と共に学ぶことができるなど、グローバルな学習環境が整っています。



グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major

GS

主に英語で「国際関係学」を学びます。学年の半数以上が海外からの留学生です。日本・京都に居ながらにして海外の大学と同様の環境で4年間を過ごします。約30カ国・地域から学びに来ている留学生と切磋琢磨しながら、高度な英語運用能力を養い、多様な文化や価値観に触れることで真の国際コミュニケーションや文化理解の機会を得ることができます。「クロス履修制度」により、日本語で開講される科目を国際関係学専攻の学生と共に学ぶことができるため、関心のあるテーマについては日本語開講の科目を履修することも可能です。



国際秩序平和



Governance and Peace Cluster

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際法を中心とする分野から総合的に学修します。安全保障・人権・ジャーナリズムなど多様な知識を深め、国際問題を解決するための新たな手法をさまざまな観点から探ります。

- 国際政治
- 安全保障
- 国際政治経済
- 途上国政治
- 国際法
- 憲法
- 国際ジャーナリズム
- Security Studies
- Comparative and Global Governance
- International Organizations
- Peace and Conflict Studies
- Global Political Economy
- International Law
- International Human Rights

国際協力開発



Development and Sustainability Cluster

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方を学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。

- 国際協力
- 地域開発
- 環境
- 国際経済
- 国際金融
- 経済政策
- 貧困
- Global Civil Society and Development
- ジェンダー
- Global Environmental Issues
- 移民
- Macroeconomics
- Microeconomics
- International Trade and Investment
- International Finance

国際文化社会



Culture and Society Cluster

高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。

- 多文化社会
- ジェンダー
- Race and Ethnicity in the Modern World
- Media and Society
- Global Sociology
- International Migration
- Topics in Identity

国際公務コース



国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

国家公務員や地域を支える地方公務員、国連をはじめとする国際機関などを目指すIR専攻・GS専攻の学生を対象とした科目を提供します。行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。希望者は2回生春学期からコースに参加し、2回生秋学期から志望するキャリアパス（公務員志望・国際機関志望）に応じた科目を受講していきます。

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------------|---------|
| 科目(例) | 国際公務セミナー | 国際公務研究A | 国際公務研究B |
| | 民法 | 行政法 | 財政学 |
| | Professional Workshop | タイ・バンコク国際機関研修 | |

国際政治の中核で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科

JDP

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位（学士「グローバル国際関係学」）を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米8位（学部）*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人と人の交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

* "Foreign Policy Magazine (2024)" のランキング



■ アメリカン大学・立命館大学 両大学の学生としてアメリカ・京都で2年ずつ学ぶ

JDPの学生は、入学時から両大学に在籍しますので、4年間を通して両大学のシステムやサポートプログラムを活用できます。アメリカン大学で2年間、立命館大学で2年間、学びの場所を変えて学生生活を過ごします。キャンパスが変わっても一貫した一つのカリキュラムのもと、両大学で体系的に学びます。

R RITSUMEIKAN HOME	1年目		2年目		3年目		4年目		
	SPRING 立命館大学	FALL 立命館大学	SPRING 立命館大学	FALL アメリカン大学	SPRING アメリカン大学	FALL アメリカン大学	SPRING アメリカン大学	FALL 立命館大学	
Core/Foundation/Cohort Courses				Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program				Senior Capstone Program (Seminar)	
Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)				Research Methods					
Japanese/English (if necessary)				Thematic and Regional Courses					

■ 学修・キャリア支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。JDPでは、学生が着実に充実した4年間を過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語運用能力の向上サポートや進路・就職面のキャリア支援など、日本の大学ならではのサポートを受けることができます。同時に、アカデミックアドバイジングといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学習サポートが両大学のスタッフにより実施されます。



■ 卒業時に両大学の共同単位を取得

卒業時は両大学連名の学位を手にすることができます。アメリカン大学および立命館大学の卒業生として、卒業後のキャリアを歩むことができます（アメリカン大学・立命館大学両大学の卒業生のネットワークを活用することができます）。

4年間の学び

Timeline

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。

4年間の 大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。

Start!

1

回生

1回生 春学期

1回生 秋学期

グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)

2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。



グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG) の履修

専門演習や専門科目を通じて 専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3回生から卒業まで、「専門演習(ゼミ)」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。

3

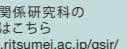
回生

3回生 春学期

3回生 秋学期

就職活動 大学院進学準備

国際関係研究科の
詳細はこちら
www.ritsumei.ac.jp/gsir/



キャリア支援教育

国際関係学部の学生に特化した、就職活動・キャリア・働き方を考える「キャリア・ワークショップ(ビジネス・メディア)」、国際機関を目指す学生向けに、英語開講の「Professional Workshop」を開講し、卒業後のキャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



4

回生

4年間の集大成 卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

卒業研究 /Graduation Research

30年以上続く技能実習制度をなぜ廃止するのか?

平山 寛太朗さん (IR専攻2025年卒業)



基礎演習

国際関係学の基礎

ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。
国際関係学を学んでいくうえでの基礎知識や、2回生以降、国際関係学を深めるための道筋を学びます。



基礎演習 /Introductory Seminar

プレゼンやレポートの作成を通して
大学生活で必要なスキルを習得できました

安井 悠さん (IR専攻2回生)

この授業の魅力は、様々なテーマを学べることです。本学部の先生方の色々な専門を取り上げたテキストを使うので、自分の興味・関心を探すことができると思います。プレゼンでは、与えられたテーマについて自分たちのグループでディスカッションするのが楽しかったです。様々な背景を持つクラスメイトと話すことで新たな視点を得ることができました。レポート作成では先生が1対1で講評してくださいり、具体的な改善点を知る貴重な機会となりました。



グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)

国際報道を体験し
人との繋がりの大切さを体感

北内 ひかりさん (GS専攻3回生)

BBC編集長としてウェブサイトを開設して情報を発信。国連安保理選挙、ブラジルの環境問題、国境なき医師団の活動など、様々な記事を書きました。授業時間外でも人脈を頼りに取材を行い、エジプトアクター主催の会議で知り合ったインドネシアアクターから情報を入手し、ミャンマーとASEANの合意に関するニュースを発信できました。人脈を頼りに自分たち独自の報道ができると思いました。GSGでも現実の大学生活でも、人との繋がりの大切さを感じました。



オープンゼミナー

毎年開催されているゼミ単位のプレゼンテーション大会です。ゼミ内で結成したグループで数ヵ月準備した研究成果を、オーディエンスの前で発表します。オーディエンスはこれからゼミを選択する学部1・2回生や卒業生(社会人)、企業の人事担当者など多種多様です。多くのオーディエンスへ自身の研究を発表し、直接フィードバックを受ける貴重な学びの機会となっています。

専門演習 /Advanced Seminar

「イケメンは正義?」
見た目による許容の境界を探る

藤澤 海音さん (IR専攻4回生)

多様性への关心から、専門演習では「ジェンダーレス男子」について研究しており、オープンゼミナールでは「イケメンは正義?」というテーマで、「顔が良ければ何でも許されるのか」「イケメンの許せない部分は何か」を彼氏・推し・政治家の三つのカテゴリーに分けてアンケートで調査しました。「イケメン」という踏み込んだ内容に興味を持ってくださった方が多く、たくさんの方にプレゼンテーションを見ていただき、日本語部門で1位を獲得することができました。



卒業研究 /Graduation Research

30年以上続く技能実習制度をなぜ廃止するのか?

平山 寛太朗さん (IR専攻2025年卒業)

30年以上続いている技能実習制度が廃止され、育成労制度への移行が決定されたことを受け、「なぜ30年経過したタイミングでの廃止なのか」をリサーチクエスチョンとして様々な角度から考察しました。過去30年間の国会議論を分析し、ベトナムの送出機関で働く日本人の職員に話を聞くなど、日本と海外で制度の捉え方が違うという点にも着目しました。学部での4年間を通して痛感したこととは「物事は常に多角的に観察する必要がある」ということです。



授業紹介

Courses

1回生

国際関係学の基礎を「基礎演習」「国際関係学の基礎」で学び、英語・初修外国語（または日本語）を学習します。

2回生

専門科目・地域研究科目を受講します。政策決定の場を疑似体験するグローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)にも参加します。

3回生

少人数制の専門演習がスタートし、興味を持つテーマについて研究を進めます。

4回生

専門演習での研究を発展させて、4年間の学びの集大成となる卒業論文の作成に取り組みます。

IR 国際関係学専攻

- 基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- 英語科目・初修外国語科目
- 国際関係学の基礎（政治・法）
- 国際関係学の基礎（協力開発・経済）
- 国際関係学の基礎（文化・社会）
- データ分析入門：数字で見る国際社会
- 国際連合入門
- 平和学入門

- GSG
- 国際関係史Ⅰ・Ⅱ
- 国際政治学
- 国際行政学
- 日本外交論
- 憲法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- 国際開発論
- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 国際協力論
- 地域開発論
- 国際文化・社会学
- ジェンダー論
- 多文化社会論
- 比較文化論

- 専門演習
- 安全保障論
- 国際ジャーナリズム論
- 国際経済学（貿易・投資）
- 国際経済学（金融）
- 環境経済論
- 宗教と国際関係
- 移民研究
- 東アジア研究
- 東南アジア研究
- 南アジア研究
- 中東研究
- アフリカ研究
- ロシア・ユーラシア研究
- ヨーロッパ研究
- 北アメリカ研究
- 卒業研究
- 専門演習
- 途上国政治論
- 国際政治理論
- 日本経済論
- 日本文化・社会論
- 表象文化論
- メディア論 など

GS グローバル・スタディーズ専攻

- Introductory Seminar I・II
- Academic Skills I・II・III
- Introduction to International Relations
- Introduction to the United Nations
- Introduction to Peace Studies
- Introduction to Law
- Introduction to Justice
- Introduction to Linguistics
- Introduction to Anthropology

- Japan and the World
- Modern World History
- Global Simulation Gaming
- Theories of International Relations
- Politics for Global Studies
- Economics for Global Studies
- Sociology for Global Studies
- International Law
- Global Political Economy
- Peace and Conflict Studies
- International Organizations
- International Human Rights
- Development Studies
- Global Environmental Issues
- International Trade and Investment
- Global Civil Society and Development
- Media and Society
- International Migration
- Professional Workshop
- Japanese Society
- Japan - United States Relations
- Foreign Relations of Japan
- Korean Studies
- Chinese Studies
- Southeast Asian Studies
- Advanced Seminar
- Graduation Research

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

立命館大学（京都）で受講する科目（例）

- Introductory Seminar I・II
- Academic Skills I・II・III
- Introduction to International Relations
- Introduction to the United Nations
- Introduction to Gender Studies
- Introduction to Peace Studies
- Economics for Global Studies
- Macroeconomics
- Microeconomics
- Global Studies Research

アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目（例）

- Theories of International Relations
- Comparative and Global Governance
- Cultural Awareness and Communication
- Race and Ethnicity in the Modern World
- Security Studies
- Japanese Culture
- Advanced Seminar
- Graduation Research
- SISU-106 First Year Seminar
- SISU-206 Introduction to International Relations Research
- SISU-212 China, Japan and the United States
- SISU-306 Advanced International Studies Research
- SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia
- SISU-359 Environment, Conflict, and Peace
- SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution
- SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance
- SISU-393 International Relations Theory

*立命館大学から学修を始める際の一例。学修スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。

外国語の選択

（国際関係学科）

日本語を母国語とする入学者は、英語と初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか1語種）を、留学生は英語と日本語を、1回生時に全員が学修します。初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語）については、2回生以降、更に当該言語の学びを深めたい希望者向けに、中級・上級レベルの語学授業を体系的に受講できる「副専攻」制度や、「●●語アドバンストⅠ・Ⅱ」という科目的受講、当該言語を用いて国際関係の専門分野を学ぶ「●●語国際関係Ⅰ・Ⅱ」という科目を受講することができます。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することができます。

基礎演習

Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

国際関係学の基礎

Introduction to IR

1回生全員が受講する科目です。国際関係学を学んでいくにあたって「政治」「法」「協力開発」「経済」「社会」「文化」、それぞれの分野の基礎知識を身につけながら、2回生以降どのように各分野を学んでいくか、その方法や道筋を学びます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング

Global Simulation Gaming (GSG)

2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など毎年年に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会もあります。

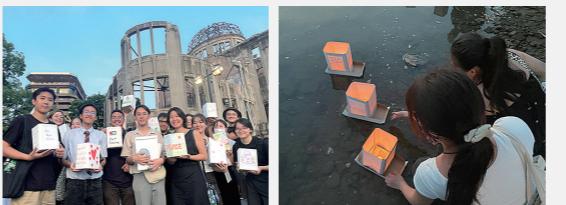
専門演習

Advanced Seminar

3・4回生時に所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味・関心を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。国内外にフィールドワークに出かけるクラスや、「オープンセミナー」というゼミの学びを外部の方へプレゼンテーションする企画に参加するクラスなど、ゼミによって学ぶスタイルは様々です。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成していきます。

Peace Studies Seminar

広島や長崎での学外研修を含む一連の活動を通じて、世界平和と国際協力の重要性について学ぶ英語開講科目です。多様な文化背景や国籍を持つ学生たちが集い、グループディスカッションやフィールドワークを行うことで、平和と協力に関する深い理解を目指します。



地域研究科目

Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目

Core Program Courses

国際関係の諸侧面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際協力論、多文化社会論、メディア論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各分野における理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

卒業研究

Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。



国際関係学科では所属する専攻に関係なく、日本語・英語どちらの言語で開講されている科目でも自由に履修することができます。日本語基準のIR専攻の学生が英語で開講される科目をGS専攻の学生と共に学ぶことや、英語基準のGS専攻の学生が日本語で開講される科目をIR専攻の学生と受講することが可能ですので、多くの学生がクロス履修制度を活用して、自身の言語能力に応じて学びを深めています。



多様な視点や価値観に触れ、考え方を相対化しながら深める姿勢を獲得

岸本 幸弘さん (IR専攻4回生)

GS専攻の英語開講科目「Japanese Society」や「Japanese Culture」、「Japanese Politics」などを履修。外国人教員による国際的な視点からの日本分析に触れ、自分が当然だと思っていた価値観や常識が、実は特定の歴史的・文化的背景に支えられていることを学びました。日本を客観的に見つめ直すきっかけとなり、自分の考え方を相対化しながら深めていく姿勢が養われました。



日本語ならではの『ジェンダー論』でさらに関心が高まった

尾上 沙知保さん (GS専攻4回生)

ジェンダーに関心があり、『ジェンダー論』を受講しました。母国語である日本語で興味のある授業を受講することで、理解が深まると感じます。ジェンダーに対する興味がさらに大きくなり、ゼミを選ぶきっかけになりました。それまで交流してこなかったIR専攻の学生たちと触れ合う機会が生まれ、新しい考え方や知識を得ることができたと感じています。

Global Education



英語科目 / Academic Skills/Intensive English

国際関係学部では、学科や専攻、学年に合わせて読む/書く/聞く/話すの英語4技能を伸ばすための授業を開講しています。

国際関係学専攻の学生が1年次に受講するEnglish for International Studies I～IVは、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用し、総合的な英語運用能力を修得することを目的とした科目です。2年次には、英語で国際関係学の専門分野を学ぶための力を養うためにBridge to International Studies I～IIIを受講します。入学してから2年間継続して英語を学ぶことにより、英語で開講される授業や交換留学に備えることができます。

また、グローバル・スタディーズ専攻と国際連携学科の学生は1年次にAcademic Skillsという授業を受講します。これは英語で国際

関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを養うための授業です。

これらの授業はTOEFL®およびCEFRの国際基準規格を基にして能力別にクラス編成がおこなわれているため、自分のレベルにあつたクラスで効果的に英語力を伸ばすことができます。

これらの英語科目に加え、主に交換留学を希望する学生に向けて、英語の苦手分野を克服することに重点を置くIntensive Englishという科目もあります。語彙と読解、スピーキングとリスニング、ライティングと文法という三つのクラスがあり、選考の上、自分の苦手分野の授業を受講することができます。

自分よりレベルの高い学生と共に学ぶことで刺激を受けています



南 佳恩さん (IR専攻2回生)

入学前からTOEFL®の勉強に励み、念願かなってAdvancedレベルのクラスに。大量のリーディングの課題、ディスカッションに備えての予習など、ついていくのに精一杯でしたが、1回生をやり切った時には1年間やり切れた自分に自信を持てるようになりました。2回生になってからはGSの授業も受講しています。政治に関する英語の文献を毎週読み、留学生や海外での生活の長い学生たちにまじってその内容をディスカッションできるようになりました。

学問的なテーマと関連づけ
英語力の活かし方を学んでいます



田畠 和結斗さん (IR専攻2回生)

高校時代にカナダへの留学経験があり、日本の学校でも英語をメインとした授業を受講し言語の学習に取り組んできました。大学では英語の必修授業やGS科目の授業を通して、より学問的なテーマと関連づけていくことで英語力の活かし方を学び、スキルアップへと繋げています。現在は、英語の学習も進めながら第二言語となるスペイン語に興味を持ち、短期留学プログラムへの参加や副専攻の履修など、語学力の向上を図っています。



バンコク国際機関研修 International Organization Training Program in Bangkok

国際関係学部では、将来、国際機関でキャリアを積んでいきたいと考えている国際関係学部の学生を対象に「バンコク国際機関研修」を実施しています。この研修では、タイのバンコクで活動する複数の国際機関(UNESCAP・UNHCR等)、国連と連携して活動を行うタイ政府機関、そして現地の大学を訪問し、これら機関の活動を視察します。

参加学生は、各機関の職員とのブリーフィング・セッションやワークショップ、

現地大学の学生との国際交流を通じてモチベーションを高め、国際機関への就職に向けた計画を具体化することを目的としています。このプログラムはすべて英語で実施され、参加を希望する学生は語学力などの出願条件満たし、選考を通過することで参加ができます。



研修での経験が
国際機関で働きたい
という気持ちを
固めるものとなりました



岩村 篤さん (国際関係研究科 国際関係学専攻 博士前期課程1回生)

このプログラムで得られるメリットのひとつが、国際公務員として働くとはどのようなものか、その感覚を掴むことができる点です。国際機関を直接訪問することで、彼らが情熱を持って仕事に取り組んでいる様子を目の当たりにすることができました。同時に、ワークライフバランスをどう考えているか、国際公務員になるまでの経歴、どんな苦労があったかなど、普段は聞けないような話を聞くこともできます。今後のキャリアについてじっくり考える機会になりますし、国際機関で働くことへの情熱に火がつききっかけになるかもしれません。

[全学募集] 海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2024年度には177名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。
*プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム

| 半年～2年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

立命館・UBC GATE-EDIプログラム

留学期間: 希望者は現地渡航前の選考で合格すれば延長が可能。最大2学年。
留学先: 世界35ヵ国・地域、139大学・機関
留学先: カナダ

ASEANで学ぶ国際PBLプログラム

留学期間: 4ヶ月～5ヶ月
留学先: インドネシア・タイ

立命館・W・シントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム

留学期間: 4ヶ月
留学先: アメリカ

1セメスター留学プログラム

| 4ヶ月～6ヶ月

長期留学プログラムも視野に入れた、語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

立命館・カリフォルニア大学デビス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム

留学期間: 6ヶ月
留学先: アメリカ

立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム

留学期間: 4ヶ月
留学先: アメリカ

立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティビティ」プログラム

留学期間: 4ヶ月
留学先: イギリス

69 カ国・地域 **473** 大学・機関 と協定を結んでいます *2025年5月現在

短期留学プログラム

| 1週間～6週間

語学力の向上と異文化体験を主目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方でも参加可能で、フィールドトリップや集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

代表的な留学プログラム

Global Fieldwork Project

留学期間: 1週間
留学先: ベトナム、マレーシア、タイ 他

異文化理解セミナー

留学期間: 2～4週間
留学先: カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス

Advanced Global Fieldwork Project

留学期間: 約10日間
留学先: ベトナム、タイ

現地で学ぶ初歩語セミナー

留学期間: 3～4週間
留学先: 台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その一つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」(給付型)は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。(2025年現在)



*上記の他、海外スタディなどのプログラムも提供しています。

ゲストスピーカー

Guest Speakers

国際関係の第一線で活躍するエキスパートを多数招聘

国際関係学部では実社会と学部での学びのつながりを重視しており、国際社会で活躍している多様なゲストを授業等に数多く招聘しています。外交や国際問題のエキスパートや、ジャーナリスト、文化活動の専門家や、企業等で活躍している卒業生、海外大学の研究者等が頻繁に学部へ来学しますので、学生達は様々な専門家から聞いた話を自身の学びやキャリア形成に活かすことが可能です。

2024年度来訪した主なゲストスピーカー一覧

- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| ■ 元外務省 事務次官 | ■ UNICEF 東京事務所 所長 |
| ■ 元外務省 外交官 | ■ 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）元中央アジア地域事務所所長 |
| ■ 元外務省 駐ロシア特命全権大使・ウクライナ大使 | ■ 独立行政法人国際協力機構（JICA）トンガ支所長 |
| ■ 内閣府 國際平和協力本部 事務局長 | ■ 独立行政法人国際協力機構（JICA）安全管理部 次長 |
| ■ 世界銀行 副総裁 | ■ 在アメリカ合衆国日本国大使館 政治部 |
| ■ 国際連合大学学長 国際連合事務次長 | |



京都で学ぶ

Kyoto

文化と歴史の街であり、ユニークなカルチャーが息づく大学の街である、京都。ここにしかないキャンパス・ライフがあります。

北内 ひかり さん
(GS専攻3回生)

古いものと新しいもの、自然と街の全てを楽しめるのが京都の魅力だと思います。キャンパス付近にはパン、コーヒー、ラーメンなどの魅力的なお店があり、授業の合間や終わってから友達と楽しむことができます。梅の時期にはキャンパス近くの北野天満宮で、桜の時期には鴨川でお花見をしたりしています。少しバスに乗って烏丸や河原町まで行くと、買い物や映画なども楽しめます。非常に充実した居心地の良い大学生活を送っています。古き良き街並みを楽しむ観光客を見ていると、京都の街を誇らしくも思います。

進路・就職

Careers



株式会社中日新聞社
東京本社編集局 経済部

高田 みのり さん

2016年国際関係学部卒業

VOICE

情報を正しく伝える難しさと大切さを実感
「答えのない問題を考えたい」と記者を志した。

学生時代、特に印象に残っているのは、カナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)への交換留学です。世界中から多様な学生が集う環境での学びは、非常に刺激的でした。国際関係学部やUBCでの学びを通じて実感したのが、情報を正しく伝える難しさと大切さです。「答えのない問題をじっくり考えたい」「自分とは異なる意見の人の話を聞きたい」との思いが生まれたことが、記者を志すきっかけになりました。現在は、経済部の記者として主に財務省を担当。国会の会期中は財務省や議員会館、国会議事堂などを走り回って取材し、記事を書く日々です。名古屋本社社会部時代に、広島サミットの取材メンバーに抜擢され、「英語を使いながら国際政治の最前線を取材したい」という目標を叶えることができました。次は、入社時から目指している海外特派員になることが目標です。

2011年、国際関係学部に入学。2016年4月、株式会社中日新聞社に入社。滋賀県・大津支局に勤務時に、冤罪事件「呼吸器事件」の取材に携わる。この報道により、取材班の一員として「第19回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」などを受賞。2021年、『戦時下の東南海地震の真相 - 中島飛行機半田製作所を中心に』(共著:西まさる氏)を出版。



株式会社ベイカレント・コンサルティング
コンサルティング本部

柴田 啓成 さん

2015年国際関係学部卒業

VOICE

グローバルな環境で学んだ経験が
コンサルティング業務に活きている。

社会全体にインパクトを与えられる仕事に挑戦したいと思い、コンサルティング業界を志望しました。現在は自動車メーカーを中心としたプロジェクトに参画し、クライアントの事業課題の解決や経営戦略の立案・実行を支援しています。市場調査や競合分析、新製品開発のプロジェクトマネジメントなど、業務は多岐にわたります。大学生活で最も印象深いのは、ブリティッシュコロンビア大学(UBC)に留学したことです。多様なバックグラウンドを持つ学生と学び、リーダーシップやコミュニケーションスキルを磨くとともに、多様な視点を尊重しつつ、自分の意見を発信する力を培いました。こうした力は、コンサルティング業務でも大いに役立っています。コンサルタントとしての力量をさらに高め、変化の激しい社会の中で持続的に成長し、多様な分野で活躍できる人材になりたいと思っています。

2011年、国際関係学部に入学。2012年9月から「国際リーダー養成プログラム」第1期生としてUBCに留学。2015年4月、パナソニック株式会社に入社。オートモーティブ営業本部、Panasonic Automotive Systems Company of America (PASA) で勤務。2022年5月、株式会社ベイカレント・コンサルティングに入社。コンサルティング本部で経営戦略の立案・実行支援などに従事する。

進路・就職状況

開設37年をむかえ、世界の第一線で9,000名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。
世界の有力大学院にも多数進学しています（ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンズ大学など）。

2023年度卒業生 就職先一例

50音順		
アクセンチュア(株)	シャープ(株)	(株)毎日新聞社
アビームコンサルティング(株)	ANA(全日本空輸(株))	(株)三井住友銀行
アマゾンジャパン合同会社	ダイキン工業(株)	三菱商事(株)
(株)エイチ・アイ・エス	東海テレビ放送(株)	三菱電機(株)
エイベックス(株)	豊田通商(株)	(株)読売新聞大阪本社
関西電力(株)	日産自動車(株)	楽天グループ(株)
京セラ(株)	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)リクルート
(株)クボタ	日本航空(株)	ローム(株)
独立行政法人国際協力機構	日立造船(株)	(株)ロッテ
(株)サイバーエージェント	(株)ファーストリテイリング	国家公務員一般職(国土交通省)
サッポロビール(株)	富士通(株)	国税専門官
JFE商事(株)	Bloomberg L.P.	地方公務員(上級職)

